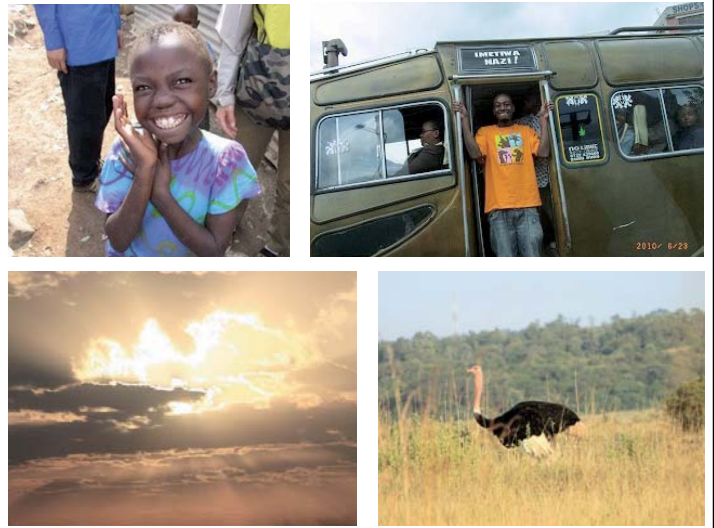


▼清水先生と折り紙教室でのケニアの子供たち



ケニア通信③

多くの発見がある毎日

6月21日に青年海外協力隊AIDS対策隊員としてケニアへ派遣された清水美春先生。首都ナイロビでの現地訓練やスワヒリ語の勉強を終え、現在はHIV包括的ケアセンターで働いておられる。今回はキマグレ第489号、本紙7月号に引き続き、ケニア通信をお伝えします。

精一杯生きる子供たち

〜東高生へのメッセージ〜

1、2年のみなさん。不平不満を言っているとつまらない高校生活で終わります。原因は自分自身です。今のうちに多くの世界に触れてください。部活動と勉強の両立や、進路や志望校など、迷った時には困難な方を自分で選んでみてください。困難だと思っていることの前には、必ずあなたの憧れがあるはず。東高生には努力できる才能があります。そして自身への過小評価の中で隠れている大きなパワーがあります。一歩踏み出して、ひと皮もふた皮も成長できる高校生活にしてください。

3年生のみなさん。どんな夏休みを過ごしましたか?ケニアにいる私のことなど、すっかり忘れていてくれることを願います。(心配ない気もしますが。)それほどあなたたちの送っている「いまここ。この瞬間。」は、その大きな眼差しも決意もそらすことのできない大事な日々だということです。これからの度重なる模試と結果は、あなたの志望校への本気度もテストしてくれます。たかが判定なんぞに負けるな。苦しい時こそ、成長しているとき。「国境も大陸も越えて報告したい!!」となる3月の希望進路実現の際にふと思い出してくれれば本望です。応援しています。

7月29日、清水先生はJICAの講義の一環として、NGO「チャイルドドクター」のスタッフとツアーに参加された。清水先生は約6000人が居住するミトゥンバラムを訪れ、そこに住む7人家族のお宅を訪問された。その家族の1日の食費は約1200円。父親の月収は24000円。これは家賃12000円を含んだ1か月の支出40000円を大きく下回る。3か月分の家賃を滞納しているこの家族には子供たちを学校へ行かせるお金は残っていない。しかし、ケニアにはスラムにさえ住めない人々も多くいるという。清水先生が母親に「夢を聞く」と子供たちが仕事をもち、お金を稼ぎ、スラムの外へ連れていってほしい」と話した。「ケニアではお金がすべて。あれば幸せ、なければ不幸せ。生まれ変わったらケニア以外の国に住みたい」。母親はそう語った。その言葉から清水先生は直感せざるを得ない問題の大きさを痛感し、感じられた。教育を受けられる者のみか収入のよい職業に就ける。そんな当たり前の循環から一度外れてしまった家族には一体どんな挽回の道があるのだろうか。清水先生は話を聞いていた。間、ずつとこのことを考えていたという。しかし、「その中で元気に生きる子供たち、笑顔は何と心強い。単純に力を感じることができた。そんな強さが日本の子供たちや私たちに無いもの」とは決して思わない。途上の国の人の笑顔は輝いていて、先進国の人の笑顔は輝いていない、というように感じている。清水先生は、日本の進学校に通う子供たちも、日本の進学校に通う子供たちも、それぞれが直面する現実の中で、精一杯生きていく。違いう国、違う状況に住む人同士を比較すること自体意味のないことのようにも思える。人間の底力や輝きなど、どこに起る断水など、日本では経験できないようなことを何度も経験された。「今まではバケツ一杯の水で頭から体まで洗えるようになった」と清水先生。そんな清水先生にケニアで今までの1番楽しかったことを聞くと「ケニアで野性のライオンを見たこと」と、

ケニアではお金がすべて。あれば幸せ、なければ不幸せ。



▲苦しい生活の中でも、母親はもう一人子供がほしい、と言う。

続く

(響)

環境に優しい印刷
アイズエコプリントプロジェクト
CO2排出権付水なし印刷 GREENeye
管理された森林材を利用した FSC認証用紙
植物成分の油を使用した ベジタブルオイルインキ
琵琶湖の環境を守る寄付金付 びわ湖環境ペーパー

EINS
エコま「グリーン」ストラップ
先着50名様プレゼント!
QRコードからアクセスして名前を登録してね!
アイズ株式会社
本社/滋賀県近江八幡市中村町49-12 (〒523-0894) TEL (0748) 32-1101 (大代)
電工工場/滋賀県蒲生郡蒲生町2291-3 (〒520-2573) TEL (0748) 58-8101 (代)